

はじめに

北海道開拓の村は主に明治(1868～1912)・大正(1912～1926)期の建造物を道内各地から集め、復元・再現した野外博物館です。

北海道は長い間、先住民族であるアイヌ民族の生活の場でしたが、室町時代頃から和人が移り住むようになり、以後、豊富な水産資源と広大な土地を目当てに多くの人に移り住みました。

明治2年からは、国が開拓使を設置して本格的な未開地の開拓を始めましたが、厳しい自然環境の中での開拓は決してやさしいものではありませんでした。人々は知恵と力を出しあい、また、欧米を中心とした諸外国から新しい技術を導入して北海道の開拓にあたってきたのです。

明治期の北海道における建築は、日本において古くから受け継がれてきた伝統的な木造建築技術に欧米の技術が取り入れられたことが一つの特徴で、北海道の各地の気候や風土に適應するための工夫が重ねられました。また、開拓の村では、開拓者たちが郷里の建築にならって建てた家々も多くあります。これらの建物は、様々な地域から北海道へと移り住んだ開拓の歴史を物語っているといえるでしょう。

村内は市街地群、漁村群、農村群、山村群で構成され、それぞれの建物ごとに資料を展示して、開拓時代の先人たちの意欲あふれる生産や生活の様子を目の当たりにすることができます。

みなさんが楽しく見学できるように建物や道具のいろいろな見方を書いています。この利用ガイドを参考に、みなさんそれぞれの方法で開拓の村をご利用ください。

私たちの先人と北海道開拓

私たちが暮らしている北海道。北海道が今のように発展してきたのは、今からおよそ130年前、外国の技術を取り入れて、国の政策として始められた開拓と私たちの先人の努力があったからです。

1869(明治2)年、明治政府は、北海道の開拓を進めるために「開拓使」という役所をおいて、札幌を北海道の中心の街としてふさわしい街づくりを始めました。街を碁盤の目のようにしたのはこの頃に考えられたことです。1873(明治6)年には開拓使札幌本庁舎が、その後、1888(明治21)年には今の赤レンガ庁舎が建てられました。

1871(明治4)年、アメリカ合衆国から招いたホーレス・ケプロンを中心とした多くの外国人技術者によって、気象や地形の測量、地質や石炭、石油の調査など、北海道を知ることから始めました。そして、北海道に適した農業、工場の建設と住宅、食生活の開発を行いました。さらに、多くの移住者と生産物を運ぶための道路や鉄道の建設を急ぎました。また、北海道開拓を支える日本人の技術者を育てるために学校を建設しました。この学校が札幌農学校、今の北海道大学です。

東北6県を合わせた面積よりも広大な土地で、冬はとてつもなく寒い北海道には、それまでの日本の技術では畑を耕し鉄道を通すことはできませんでした。そこで開拓使は、多くの外国人技術者を雇って、外国の進んだ技術で石炭を掘り、鉄道を通し、畑を耕し、乳牛を飼ったりして開拓を進めたのです。

しかし、外国人技術者だけでは、たくさんの仕事をすることはできません。この時、とても大きな役割を果たしたのが、本州・四国・九州地方からやってきた人々で、彼らは北海道各地に移住していろいろな仕事をしました。

炭鉱^{たんこう}では石炭を掘りました。石炭は蒸気機関車^{じょうききかんしゃ}や工場を動かしたり、暖房^{だんぽう}の燃料、そして電気をつくるためにも使われていたので、石炭がとれる場所には多くの人が働いていました。

漁業^{ぎょぎょう}では主にニシン漁に多くの人が働きました。ニシンという魚は、畑作物^{ひりょう}の肥料として大変貴重で、主に愛知県・兵庫県・徳島県など西日本に多く送られました。ニシン漁は江戸時代から行われていて、主に東北地方から多くの人が北海道^{わたく}に渡ってきました。彼らは、江差・松前といった日本海側の海でニシンを取る仕事をするためにやってきた出稼ぎ^{でがせぎ}の人たちでした。開拓使が置かれた明治時代になってからは、さらにニシン漁が盛んになり、漁をする場所が小樽・留萌と北上するにしたがって多くの人が北海道に渡ってきました。

農業では、有珠郡（伊達市）や静内に入植した「土族移民団^{しぞくいみんだん}」や北海道内の各地に設置された「屯田兵^{とんでんへい}」など、江戸時代に武士であった人々が大きな役割を果たしました。土族移民団の中には、広い土地を開墾^{かいこん}するため、プラウやハローなどの大きな西洋式農具を使う率先的な団体もありました。屯田兵は、北海道を外国の侵入^{しんにゅう}から守ることと農業によって開拓を進める人々で、1875（明治8）年に最初の屯田兵が琴似（札幌市）に入植しました。その後、土族以外の平民の人も屯田兵に加わりました。

こうして開拓が進められてくると道内各地には町がつくられ、多くの人や物が移動するようになり、鉄道や道路の建設はますます重要になってきました。

最初の鉄道は、幌内炭鉱（三笠市）でとれた石炭を運ぶために計画されました。北海道に初めて鉄道が通ったのは1880（明治13）年で、手宮（小樽市）と札幌の間にわが国でも3番目の鉄道として開通しました。

そして2年後には幌内まで延長えんちようしました。たくさんの石炭を一度に早く港がある小樽に運ぶためには、鉄道はどうしても必要だったのです。その後、鉄道は着々と建設され、明治時代の終りには、函館から札幌を通して釧路、留萌、名寄方面までつながりました。道路は、函館から札幌までのルートが早くから開け、海岸部から内陸部へと建設されていきました。

道路沿いに電信線でんしんせんや郵便局ゆうびんきょくが設置され、線路沿いには電話線もつながり、郵便と通信によって道内各地と本州方面が結ばれました。こうして開拓使が設置された後の北海道は、目覚しい早さで発展してきました。

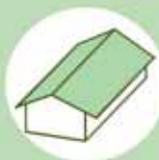
今、私たちは、多くの先人たちが未来の北海道に夢ゆめを描きえがき、力を出し合って広大な原野げんやを耕し、残してくれた大地に暮らしているのです。

建物の特徴

ここでは建物の形や材質などを紹介します。ここでチェックしながらそれぞれの建物をみくらべてみましょう。



屋根のかたち



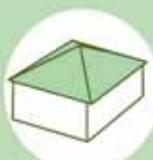
■きりづま
(切妻)



■いりもや
(入母屋)



■よせむね
(寄棟)



■ほうぎょう
(方形)



■マンサード
(腰折れ)

屋根の材質

■かや (茅、萱)

屋根を葺くのに用いる草をまとめた呼び名、チガヤ、スゲ、ススキなどのこと。

葺く・・・板、瓦、茅などで屋根を覆いつくること。

■かわら (瓦)

主に屋根を葺くのに用い、粘土を一定の形に固めて焼いたもの。丸瓦、平瓦、鬼瓦、敷平瓦など様々な種類のものがあります。

■トタン (亜鉛鉄板)

亜鉛でめっきした薄い鉄板。屋根の葺き方によって、平葺、菱葺などと呼ばれます。

■まさ板 (桎板)

年輪がきれいに平行して現れるようにつくった木の板を桎と呼びます。年輪に対して直角に割って作るうすい板。主にトドマツ、エゾマツなどが使われます。

本州以南ではこのような板を柿板(こけらいた)と呼ぶ事が多く、サワラ、クリ、スギなどが使われます。

まど（窓）



■ひきちがい窓 (引 違 い)

左右にずらすことで開閉する窓で、日本でも古くから使われてきたものの一つ。



■上げ下げ窓

下側を持ち上げることで開く窓です。
アメリカなどでよく使用されます。

★窓にはガラスだけでなく、木や紙などを使ったものもあります。また、ドーマー窓と呼ばれる飾りのための窓や、開くことのできない明かりとりの窓など、材料や、使い方の違うたくさんの種類があります。

★開拓の村の建物の窓には、鉄の棒がついているものがあります。防犯、デザインなどの理由が考えられますが、大切なガラスが、盗まれたり壊れたりしないように守っているのかもしれない。

ゆかのいろいろ

■たたみ（畳）

わらを糸でさしかためた床（とこ）に、いぐさで編んだ表部分をつけ、板間などにしくもの。しきだたみ。

※いぐさ…単子葉植物の科。多くは湿生の多年草。地下茎が発達し、葉は小さい。

■板間いたばりゆか（板張床）

床を板張りにしたところ。きれいに仕上げた板を使う。板張床の上に畳をしいて使っている場合もあります。

■土間

土そのままの場所や、石灰・赤土・砂利などに苦塩をまぜ、水を加えて練り固め、地面に塗って叩き固めたもの。

にがり
※苦塩…海水を煮つめて製塩した後に残る母液。主成分は塩化マグネシウム。

かべ（壁）の材質

■土

土をもりあげて壁にするのではなく木や竹などで骨組みを作り、わらや麻を混ぜた土を塗りこめて造ります。

北海道では寒さを防ぐ手段として、板壁の内側などに多く使われました。

■しっくい（漆喰）

消石灰にふのり・苦汁などを加え、これに糸くずなどを混ぜ合わせて練ったものをしっくいといひ、土壁にぬって仕上げます。

火や水に強いといわれ、商家や倉などによく使われました。

■木

民家に板壁が普及するのは薄い板をつくるための技術的な問題から、江戸時代に入ってからのことです。

北海道では豊富な材料を使い、多くの板壁の家が建てられました。

ログハウスのように角材や丸太を壁に使う家もあります。

■石

丈夫で火に強く、寒さにも耐える材料に石があります。北海道では凝灰岩と呼ばれる石が多く使われました。凝灰岩はたくさん取れ、加工もしやすかったので、倉庫などにもよく使われました。

小樽運河に並ぶ石倉が有名です。

■レンガ

粘土に砂を混ぜ、型に入れて固め、乾燥させてから、かまで焼いてつくります。

レンガは耐火性と耐久性に優れています。

北海道では旧北海道庁の赤レンガ庁舎が有名です。

いろいろな道具

ここでは開拓の村にあるたくさんの道具の中から何点かを選び出してみなさんに紹介します。いまの生活の中では見ることはできないもの、形を変えて使われ続けているものなど、様々な道具にも目を向けてみましょう。



電話

この電話にはボタンもダイヤルもありません。代わりにハンドルがついています。このハンドルは発電機はつでんきになっていて回すことで電流を流し、交換手こうかんしゅを呼びだすしくみでした。(次第に受話器をとると自動的につながる形式のものへと変わります)

交換局とつながったら交換手こうかんしゅに何番(電話番号)の電話と話したいかを伝え、つないでもらっていました。



ブ ラ ウ

明治の初めにアメリカから輸入された農機具の一つで、馬にひかせて土をおこす道具です。

ブラウには荒れた土地をたがやす新墾ブラウ、一度掘り返したところをもう一度おこす

さいこんブラウなどがあり、土の質によって刃の形を変えたり、ひく馬の頭数によって一頭引き、二頭引きなどたくさんの種類かがあります。



たこ足

すいとちよくほんき 水稲直播機

北海道では広大な土地を効率よく利用し、寒さの害をさけるため、苗を移植する田植えからの米作りではなく、種籾を直接水田にまく方法が盛んに行われました。直播きは労力が少

なくてすみ、収穫の時期が多少早まるために霜の害にあいにくいという利点がありました。

水稲直播機は、水田に均等な間隔でたくさんの種をまくための道具です。その形から「たこ足」、「ねこ足」といった名前がついたものや、発明した人の名前がつけられたものがあります。

北海道が米の一大生産地になった背景には広大な土地だけでなく、人々の努力と工夫がありました。



もっこ

左の絵はニシン場で使われていたもので、背中に背負って使います。船が漁から戻ると、背負ったもっこにニシンをつめてなんどもなんども運びました。「もっこ」という呼び名の、物を運ぶ道具は農作業に使うものなど、ほかにもあります。

子ども用や大人用などいろいろな大きさのものがああります。

はかり

物の重さをはかるのに使う道具でてんびん天秤、だいばかり台秤、きおばかり棹秤、ばね秤などがあります。てこの原理やばねの性質などを利用して重さをはかります。

何をはかるかによって、形や重さのみかたが違います。



上皿棹秤

課題別見学モデルコース

北海道開拓の村は、どんな見方をするかで全く違う楽しみ方ができます。ここにいくつかのコースを紹介するので、興味のあるコースを選んで見学してみましょう。

見学の中で興味を持ったことや疑問に思ったことを図書館などで調べてみたり、自分のすむ町で探してみるのも良いですね。

西洋技術コース

ふるさと調べコース

仕事コース

環境コース

民家コース

西洋技術コース

所要時間 2 ~ 3 時間

旧開拓使札幌本庁舎

旧浦河支庁庁舎

旧小樽新聞社



ドーム

旧開拓使工業局庁舎

旧近藤医院

旧小川家酪農畜舎

ドーマー窓

デザインのためにつけた飾り窓。北海中学、札幌農学校寄宿舎などに見られます。

旧青山家漁家住宅

旧北海中学校

旧福士家住宅

旧開拓使爾志通洋造家



マンサード
(腰折れ屋根)

窓や屋根・壁のつくりや、柱の構造に注目してヨーロッパやアメリカの技術を見つけましょう。また、和風部分を見つけ出して、どのような生活をしていたか想像し、昔からの家の形を大切にしたい理由を考えてみましょう。

ふるさと調べコース

所要時間 2～3時間

旧武岡商店(兵庫)

旧浦河公会会堂(兵庫)

旧青山家漁家住宅(山形)

旧秋山家漁家住宅(秋田)

旧岩間家農家住宅(宮城)

旧樋口家農家住宅(富山)

旧菊田家農家住宅(新潟)

山村群

* 冬季は閉鎖

旧近藤染舗(徳島)



岩間家



近藤染舗

日本各地からの移住によって北海道は今のよう姿になってきたのです。移り住んだ背景や、ふるさとの伝統的な家と同じような方法で建てられた建物に注目して見学しましょう。

山村群を通ることのでどのような場所を切り開いたのかを目で感じ、開拓の挑戦と苦労を想像してみましょう。

仕事コース

所要時間 2 ~ 3 時間

旧近藤染舗

旧小樽新聞社

旧広瀬写真館

旧太田装蹄所

旧本庄鉄工場

旧土屋家はねだし

旧青山家漁家住宅

旧田村家北誠館蚕種製造所

炭焼小屋 冬季は閉鎖

旧平造材部飯場

新聞社

北海道では函館毎日新聞、小樽新聞、北海タイムスの3紙が三大新聞といわれ、多くの人に読まれていました。

広瀬写真館



屋根に注目してみよう。

漁業

北海道は古くから好漁場が多く、漁業は主な仕事の一つでした。どんな家に住んで仕事をしていたのか見てみましょう。

仕事に合わせた建物のづくりに注目してみましよう。

なかには今ではほとんど見ることができない仕事や機械があります。なぜ、昔からの仕事がなくなってきたのかを調べてみましょう。

環境コース

所要時間 1.5 ~ 2.5 時間

森林軌道機関庫

旧平造材部飯場

炭焼小屋

開拓小屋



平造材部飯場

旧農商務省滝川種羊場機械庫

旧青山家漁家住宅

旧浦河支庁庁舎 2 階

生活や仕事と関係のある建物を見ながら、開拓と環境の関係を考えてみましょう。

便利な生活と自然破壊の関係は、今でも大きな問題になっています。北海道での生活や仕事と、なぜ人々は木を切らなければならなかったのかなどを考えながら見学しましょう。

図書館などで「北海道の仕事」や「生活の様子」、「自然環境」のうづりかわりを前もって調べておくと、開拓と環境の関係がよくわかります。

民家コース

所要時間 1.5 ~ 2.5 時間

旧福士家住宅

旧松橋家住宅

旧有島家住宅

旧秋山家漁家住宅

旧岩間家農家住宅

旧樋口家農家住宅

旧菊田家農家住宅

開拓小屋



秋山家



菊田家

みなさんの家とくらべながら、当時の生活を想像して見てみましょう。似た造りの家は見つかるでしょうか。建っていた場所や仕事にも注目してみましょう。

家の中にある道具の使い方を調べてみると、形は違うけど同じ目的に使う道具が、みなさんの回りにたくさんあるはずですよ。

調べかた

興味を持ったものを調べてみよう

1、調べたいものを決めよう

- ・興味を持ったもの、気になったものを書き出してみる
- ・一番興味のあるものを選ぶ

2、調べていく順番を決めよう

- ・最後に何を知りたいのかをはっきりする
- ・どのように調べるかを定める
(本・博物館・聞き取り・インターネットなど)
- ・どんな情報が必要かを考えて調査地を決める
- ・調査を進める順番を決める
調査に協力してくれるか確認をとる

3、調査開始

- ・自分で調べられることから始める
- ・事前に決めた内容で調査を進める
- ・必要な情報がでてきたら調査内容に含める
- ・もっとよく知ることができるようにアドバイスをもらう
- ・誰から何を聞いたかを記録する

4、調査結果をまとめよう

- ・調査でわかったことを整理する
- ・みんなに伝えられるように文章にしてみる
(絵や写真も使いながらわかりやすく)

5、発表

- ・わかったことをみんなに紹介しよう

他にもいろいろな調べ方があります。みんなで工夫して調べてみてください。

開拓の村からのお願い

北海道開拓の村は野外博物館です。次に来る人、10年後100年後に利用する人たちのためにも大切に残していきましょう。

*** 展示品にはさわらない。 ***

みんなが見やすいように展示しています。また、どれも貴重で壊れやすいものなので大切に残していきましょう。

*** たてものの中ではものを食べない。 ***

開拓の村のたてものは大切な展示物ですのでよごしたら大変です。休憩所や芝生など決められたところで食べてください。また、落書きやいたずらも絶対にしないでください。

*** 植物を大切に ***

花を採ったり、木の枝を折ったりしないでください。植物も大切な展示物の一つです。

*** ゆずりあいの心を大切に ***

建物の中は狭くなっています。ゆずりあって気持ちよく見学しましょう。

*** 馬に近づかない ***

馬は神経質で力の強い生きものです。驚いて暴れ出すと大きな事故になります。



開拓の村小辞典

この辞典は、開拓の村の建物ごとに置かれている解説プレートの中で、難しい読みや、普段あまり使用しない言葉を取り上げたものです。ここにのっているものでまだわからないものがあったら、あらかじめ国語辞典や漢和辞典などで調べて見学しましょう。

市街地群

— 旧手宮駅長官舎 —

ほろないてつどう とう かんしや
幌内鉄道、6棟 官舎

敷設（敷）・（設） 設備や施設などを設置すること。備えつけること。

意匠（意）・（匠） 美術、工芸、工業品などの形、模様、色またはその構成について工夫すること。デザイン。

— 旧開拓使爾志通洋造家(白官舎) —

もはん がいかん たたみじ そくしょう
模範、外観、畳敷き、俗称

和洋折衷（和）・（洋） 日本（和）の伝統的な技術と西洋（洋）から取り入れた技術とを、ほどよくとりあわせること。

— 旧福土家住宅 —

ぞうせん つうやく きしやうかんそく かつやく こうけん とくい
造船、通訳、気象観測、活躍、貢献、特異

測量（測）・（量） 高さ・深さ・長さ・広さ・距離を求め、ある部分の位置・形状・面積を測定し、図示する技術。

— 旧松橋家住宅 —

ぞうかいちく たてもの まくわ た
増改築・ももとの建物にさらに増加したり、建てかえること。

— 旧有島家住宅 —

きんだい たけお
近代、武郎

— 旧浦河支庁庁舎 —

はいし まう ひよう きりまち ほんぶつかん
廃止、設け、費用、堺町、博物館

支庁制度（支）・（庁） 北海道をいくつかの支庁に区分して役所を置き行政を行う制度。

(明治30年に19支庁で開始、現在は14支庁)

— 旧小樽新聞社 —

ほなくみ ほんだて
骨組、函館

そうりつ はじ せつりつ そうせつ
創立・初めて設立すること。創設。

きつぽろなんせき ようけつぎょうかいがん しこつ げんしこつこ やく かさいりゅう たいせき
札幌軟石(溶結凝灰岩)・支笏カルデラ(現支笏湖)ができた約3万3千年前の火砕流が堆積し、固まった
もので、軽量で加工しやすい、耐震、耐火、耐久性に優れるとされる。

旧開拓使工業局庁舎

せっち きょうりゅう けんせつ かさい きかい しやりょう せいぞう ぎょうせき じむしょ
設置、橋梁、建設、家財、機械、車両、製造、業績、事務所

かんちよう たんどう こつかしむ けんげん のうりよく あた こつか
官庁…担当する国家事務につき国家の意思を決定し、これを表示する権限や能力を与えられた国家
機関

旧北海中学校

こうしゃ よくとし けんちく そうりつ きつぽろのうがっこう だい さんせい
校舎、翌年、建築、創立、札幌農学校、第三期生

旧龍雲寺

しのろ そうけん しんちくらくせい ほんどう
禪路、創建、新築落成、本堂

じゆうどしゆ ぶつぎよう ぼ じゆうどさんぶきやう じゆふ ほうなん じゆうふ
浄土宗…仏教の一派、浄土三部経を所依とし、法然を宗祖とする。

旧札幌警察署南一条巡查派出所

こうばん そうせいぼし かいちく とくしきふ かわ
交番、創成橋、改築、篤志寄付、壁

旧島歌郵便局

せっち きよくちよう しゆうにん ひまつ ぎょうむ
設置、局長、就任、引継ぐ、業務

旧山本理髪店

たてもの まるやま けいしや じんぐう うれさんどう ち
建物、円山、傾斜、神宮、裏参道、沿い

りはつてん とうはつ か とどの みせ したや
理髪店…頭髪を刈り整える店、床屋

旧渡辺商店

さきん ほ ようしよ ほんたつ なかどんべつ しつくい どぞう たいか たいかん こうぞう たいか きやうくん
砂金、掘る、要所、発達、中頓別、漆喰、土蔵、耐火、耐寒、構造、大火、教訓

旧浦河公会会堂

せきしんしゃ せつりつ おきふし じどうしや きやうと そしき けん れいはい
赤心社、設立、救済、指導者、教徒、組織、兼、礼拝

けつしゃいみん ちくてきたつせい だんたい もしき うつ す ひとびと
結社移民…目的達成のため団体を組織して移り住んだ人々。

にゅうしよく とち じよくみんち
入植…開拓する土地や植民地に入って生活すること。

旧来正旅館

ながやま とんでんへい にゅうしよく さくま かいぎやう えいぎやう しゆくはく きしや
永山、屯田兵、入植、策馬、開業、営業、宿泊、汽車

まちあいじよ きしゃ ばしや こうつうきかん ま ばしよ
待合所… 汽車や、馬車、バスなど交通機関を待つための場所。

— 旧三ノ河本そば屋 —

おたる しゆぎょう ざしき ちようりば いま
小樽、修業、座敷、調理場、居間

— 旧武井商店酒造部 —

かやぬま ききたん にろき せいしゆ まつ つゆ せいぞう せんじか とうせい
茅沼、石炭、荷役、清酒、松の露、製造、戦時下、統制

かいせんぎょう … 船を使い、沿岸で旅客または貨物を輸送する職業。

— 旧近藤医院 —

ふるひら かいぎょう けんちく しんりよう しゆじゆつ まちあい やつきよく きよしつ ぶんくら しょく けんきゆうしつ
古平、開業、建築、診療、手術、待合、薬局、居室、文庫倉、書庫、研究室

— 旧近藤染舗 —

そめものてん まど てんぽ
染物店、間取り、店舗

— 旧武岡商店 —

とくしまばん かりう 稲田 邦植、しなが、あわらしま、しず内郡、べいこく、ぎっか、あつか、しょうか、てんぽ、しんちく、ゆうびんきょく
徳島藩、家老、稲田 邦植、従う、淡路島、静内郡、米穀、雑貨、扱う、商家、店舗、新築、郵便局、

かいせつ
開設
やくわり は
役割、果たす

あらもの まる ほつき ちりと ぎっかりい
荒物… 糸、帯、塵取りなどの雑貨類

— 旧大石三省堂支店 —

しゆぎょう かし しょくにん ほんかがい でんしんどう てんぽ せいぞう ほんばい けん へいせつ きりつまひらり
修業、菓子、職人、繁華街、電信通り、店舗、製造、販売、兼、併設、切妻平入

おもや ず ちゆうしん ちてもの
母屋… 住まいの中心となる建物。

— 旧太田装蹄所 —

かんせんどうろ のうこう ばてい しょくしゆ
幹線道路、農耕、馬蹄、職種

ていつや うま ていつ
蹄鉄屋… 馬のひづめに蹄鉄(ひづめを守るためのもの)をつける仕事。

— 旧藤原車機製作所 —

みやだいく にゆうしよく ちせうし せいぞう かいぎょう
宮大工、入植、妹背牛、製造、開業

— 旧本庄鉄工場 —

いしかりがわ かこう きょく きよせん ぶそくひん
石狩川、河口、漁具、漁船、付属品

かじや きんぞく しゆじゆ きぶつ しょくぎょう
鍛冶屋… 金属で種々の器物を作る職業。

旧広瀬写真館

営業、写真館、外觀、和洋折衷、撮影、写場

シングルスラント…写真屋に見られるガラス張りの屋根、北側の屋根に用いて安定した光のもと撮影できるようにできている。

旧札幌拓殖倉庫

軟石、五十嵐、保存、創立、株式、隣接、集散、地域、発展、貢献

登記…権利の変更を社会に知らせるため、定められた登記簿に記載すること。

旧札幌農学校寄宿舎(恵迪寮)

開拓使仮学校、開学、現在、校内、移転、当時、玄関棟

旧札幌師範学校武道場

建物、前身、建設、入母屋造、平入、木造、平屋、重視、生徒、柔道、剣道、履修、戦時下、精神、心身鍛練、教科

漁村群

旧土谷家はねだし

付属、施設、地形、跳ね、倉、建物、船、着く、床、開口部、直接、荷物、漁獲物、魚粕、身欠鰯、数の子加工品、収納

旧青山家漁家住宅

祝津、盛期、雄冬、沿岸、主屋、石倉、機能、貴重、遺構、隆盛

漁場…魚をする権利を持っている場所。

ニシン…海の魚、3~4月頃産卵のため浅い所に回遊する。食用・肥料、鰯油など用途が広い。
「かずのこ」はその卵。

廊下

船、權、櫓、漁舟、壁、搬入

旧秋山家漁家住宅

男鹿半島、繁栄、建造、刺網漁、磯回り、寄棟造

棟飾り…屋根の棟に取り付けた飾り。

農村群

— 旧ソーケシュオマベツ駅遺所 —

喜茂別、徳舜警、荷物搬送、郵便、宿泊、業務

— 旧田村家北誠館蚕種製造所 —

絹、蚕、製造、模範

養蚕…蚕を飼い、育てて繭をとること。

— 旧農商務省滝川種羊場機械庫 —

技師、機械庫、建築、施設、基礎、自然石、積む、小屋組、構造、発展、農機具、展示

— 旧岩間家農家住宅 —

仙台藩、宣理領、入植、郷里、建築、藩主、立寄る、由緒

土族移民…明治時代の初めから中ごろまでに移り住んだ土族(華族以下、平民より上の身分)。

— 旧納内屯田兵屋 —

警備、土族、募集、内陸

— 旧樋口家農家住宅 —

入植、建築、依頼、郷里、建築様式、解体

棟梁…一つの集団の支えとなる重要な人。(特に大工のかしら)

— 旧信濃神社 —

間口、柱、構成、様式、諏訪、開墾地、大明神、御分霊、奉戴、建立、創立、発起人、信州、命名

— 旧若狭家たたみ倉 —

倉、上/風、外壁、校倉造、特殊、構造、調度、収納

— 旧山本消防組番屋 —

水田、格納庫、組織、火の見櫓

自衛団…非常の際に自らを守るために組織された民間の警備団体。

— 旧河西家米倉 —

移住者、低湿地、耕作

— 旧山田家養蚕板倉

開拓し、奨励、施設、草創期、遺構

— 旧小川家酪農畜舎

取り寄せ、設計図、参考、建築、発達、構造、特徴、軟石、譲り、移築

パルーンフレーム構造…細い柱を組み合わせた骨組みに板の壁を貼り付けて組み立てるしくみ。

— 旧菊田家農家住宅

新潟県、長岡、有力者、北越、組織、野幌原野、一員、魚沼、建築、蒲原、移築

殖民…国民や、団体が永住の目的で移り住み、仕事や生活を行うこと。

— 開拓小屋

開墾、移住者、住居、丸太、桁、梁、垂木、笹、茅、壁、膏、屋内、枯草、敷、居間、炉

山村群

— 森林鉄道機関庫

北海道庁、拓殖、国有林、直営、伐採、事業、搬出、敷設、着手、従来、運材、貨車、貯木場

流送…川などを利用して木材を運ぶこと。

— 旧平造材部飯場

興名奇、御料林、再現、伐木、造材、寝泊り、別棟

山子…きこりなど山仕事をする人。

搬出し…切り出した木材を運ぶ仕事。

馬廻い…木材を運ぶ馬とそりを扱う人。

— 炭焼小屋

木炭、黒炭、炭窯、専業、角筧



* 茶色は地名、青色は人名

開拓の村歴史年表

西暦	元号歴	竣 工	開拓の村・北海道に関すること	日本・世界に関すること
18??	江戸末	若狭家たたみ倉		ペリー浦賀に来航
1868	明治元			明治維新
69	2		開拓使設置 蝦夷地を北海道と改称	
71	4		岩間家入植	廃藩置県、郵便制度開始
72	5			学制公布 新橋横浜間鉄道開通
73	6	開拓使札幌本庁舎		地租改正
75	8		屯田兵琴似に入植	
76	9		札幌農学校開校	
77	10	開拓使工業局庁舎		西南戦争
78	11	開拓使爾志通洋造家	函館新聞創刊	
80	13		赤心社結成 手宮～札幌間鉄道開通	
81	14	山田家養蚕板倉	豊平館完成	国会開設
82	15	岩間家	三県(札幌・函館・根室)設置	
84	17	手宮駅長官舎	最初の浦河公会会堂完成	
85	18		北海英語学校開校	
86	19	武井商店酒造部	北海道庁設置 北海道師範学校開校 北越殖民社結成	
87	20	土谷家はねだし		
89	22			明治憲法公布
92	25	龍雲寺	道内人口50万人	
93	26	菊田家		
94	27	浦河公会会堂	小樽新聞創刊	日清戦争開始
95	28	納内屯田兵屋		日清講和条約調印
97	30	松橋家・樋口家・信濃神社 河西家米倉、本庄鉄工所	19支庁設置 函館で馬車鉄道運行開始	

西暦	元号歴	展 示 棟	開拓の村・北海道に関すること	日本・世界に関すること
98	3 1	武岡商店	近藤染舗開業	
1901	3 4		道内人口1 0 0 0万人	
02	3 5	島歌郵便局		
03	3 6	藤原車櫃製作所		
04	3 7	有島家		日露戦争開始
05	3 8	田村家北誠館蚕種製造所 札幌農学校寄宿舎		日露講和条約調印 (日本郵船(株)小樽支店)
07	4 0	札幌拓殖倉庫 ソークヨマハ ^レ ツ駅通所 大石三省堂支店		
08	4 1	札幌停車場	青函連絡船開業	
09	4 2	北海中学校 小樽新聞社 三ノ河本そば屋	札幌で馬車鉄道運行開始	
11	4 4	札幌警察署 南一条巡查派出所		
12	4 5			明治天皇没、大正元年
13	大正 2	近藤染舗	函館で電車運行開始	
14	3			第一次世界大戦開戦
18	7		札幌で電車運行開始	第一次世界大戦終戦
19	8	浦河支庁庁舎 来正旅館 近藤医院 青山家(母屋)	来正旅館開業 (明治 31 年待合所開業)	
20	9	秋山家		国際連盟発足
21	1 0	農商務省滝川種羊場機械庫		
24	1 3	広瀬写真館		
25	1 4			普通選挙法公布
26	1 5			大正天皇没、昭和元年
1929	昭和 4	北海道札幌師範学校武道場		世界経済恐慌
1983	昭和 58		北海道開拓の村開村(4/16)	